

特集・防災行政無線のデジタル化
市政フラッシュ
市政フラッシュ
財政状況の公表
市長コラムほか
イベント
情報ひろば
お知恵イベント
情報ひろば
子育て関連情報
情報ひろば
相談・コラム
健康書館
はぴたん
まちとぴ

安全で快適な通行のために 県道春日栗柄線が全区間開通

平成15年度から春日町野瀬～篠山市栗柄間で続けられてきた道路改築工事が完成し、6月23日、完成式典が行われました。

栗柄峠は幅員が狭く、急なカーブが連続する交通上の難所でしたが、整備により通行の安全が確保され、地域間の交流がますます進むことが期待されます。式典では春日町野瀬の細見欣一さん家族を先頭に渡り初めを行いました。



春日栗柄大橋を4世代で渡り初めする細見さん家族

全国大会出場 氷上高校が快挙!

7月3日、氷上高校女子バレーボール部とビジネスコンピューター部は全国大会出場を報告するため、谷口市長を訪問しました。女子バレーボール部は全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場し、ビジネスコンピューター部は全国高等学校簿記コンクールに団体で出場します。

市長は「自分の力を出し切って目標を達成してほしい。頑張ってください」と激励しました。



ビジネスコンピューター部の芦田円香さん、女子バレーボール部の福井若菜さん、足立溜奈さん(写真左から)

丹波大納言小豆を使用した 小豆茶ができました!



小豆茶(ペットボトル、ティーバッグ)をPRする関係者

6月18日、丹波市の特産物である丹波大納言小豆を原料にした「小豆茶」がお披露目されました。小豆茶は市内7カ所の農協直営販売所で購入できるほか、今後市外での販売も検討されています。

J A丹波ひかみの足立昌彦常務は、「丹波大納言小豆の優れた栄養成分を抽出したお茶が出来た。焙煎小豆の香り豊かな『飲む小豆』が全国に広がってほしい。」と話しました。

丹波市豪雨災害復興スタディツアー 大学生が復旧・復興を学ぶ



被災後に整備された砂防ダムを見学する学生たち

6月30日、大学コンソーシアムひょうご神戸の学生ら37人が、丹波市豪雨災害の被災地(市島地域)を訪れ、災害からの復旧・復興の歩みを学ぶスタディツアーに参加しました。

当日は、砂防ダムなどの復旧現場やアジサイ栽培で再生した被災農地の見学、野菜の収穫体験などを通して、地域住民と交流しながら、復興と地域防災によるまちづくりを学びました。

魅せた! 消防魂 丹波市消防団消防操法大会を開催

消防団の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、7月1日、平成30年度丹波市消防団消防操法大会が行われました。各地域の支団大会を勝ち抜いたポンプ車の部、小型ポンプの部、合わせて12隊が出場しました。

消防操法は、実際の火災現場を想定して、ポンプ車(消防車)または小型ポンプからホースをつないで放水し、火点を倒すまでのタイムや動作の正確性を競います。当日は何カ月にもわたる練習で磨き上げた技が披露され、白熱した演技が繰り広げられました。

7月22日に兵庫県立広域防災センターで開催される県大会には、ポンプ車の部で優勝した春日支団第1分団第2部が出場します。

【大会結果】

■ポンプ車の部 優勝:春日支団第1分団第2部
準優勝:市島支団第5分団第1部

■小型ポンプの部 優勝:市島支団第1分団第1部
準優勝:青垣支団第4分団第1部



ポンプ車の部で吸管を準備する選手



小型ポンプの部でホースを担いで走る選手

丹波ブランドのIT化に挑戦 「うちゅう」が事務所を開設

6月15日、市の魅力を発信する「市創生シティプロモーション」の全国公募パートナーシップ事業に採択された「株式会社うちゅう」が氷上町常楽に丹波事務所を開設しました。

「うちゅう」は、ドローンや人工衛星データを活用した農業のIT化の実証・導入と、子ども向けモデルロケット教室を行います。地域に根ざした同社の発展が期待されます。



農業のIT化について説明する責任者の坪井さん(写真右)

丹波ヤングベースボールクラブ 念願の全国大会に初出場!



全国大会での活躍を誓う選手たち

7月28日から行われる第26回全国ヤングリーグ選手権大会に、創立3年目の中学生硬式野球チーム、丹波ヤングベースボールクラブの出場が決定しました。

チームは「全員野球」「継続は力なり」をスローガンに、週3日の厳しい練習で心技体を磨いてきました。キャプテンの深田元貴さんは、「全国制覇を目標に頑張りたい。」と話しました。